

実践報告

「看図アプローチ語りカフェ」による 「自分を深く考えよう大作戦」 —未来に向かっていく力をつける中学校国語科の卒業制作—

茅野 徑子¹⁾

キーワード：看図アプローチ語りカフェ・協同学習・自己理解・他者理解・自己肯定感

概 要

山下（例えば 2020）が開発した「看図アプローチ語りカフェ」を卒業直前の中学生を対象にして実施した。「入学した自分」「卒業する自分」「未来の自分」にふさわしいと考える写真を 1 枚ずつ選択する。各写真に 7 文字のタイトルをつける。それにより自分の思いをおおまかにつかむ。次にそれらの写真やタイトルについての説明を書き、考えをまとめながら聞き手に説明する準備を行う。以上の個人思考のあとグループ内での発表や相互コメント等のグループ活動を行う。2 コマの授業の流れの中に、個人思考・グループ活動を入れることにより、自分とじっくり向き合える設定になっている。仲間とともに自己認識をすすめる、新たな世界に向かうエネルギーチャージができることを期待した授業実践である。

I. 目的と生徒の状況

前回の看図アプローチ実践（茅野 2020）では、ビジュアルテキストとして絵図を用い生徒たちに自分の思いを語らせた。今回は、ビジュアルテキストとして写真を用いる。「自分を深く考えよう大作戦—国語科卒業制作—」をテーマとした 2 コマ（各 50 分）の授業を計画・実施した。今回の試みは中学 3 年間の授業終了、公立高校前期入試直前というタイミングでの実践である。2 月中旬には定期テストがあるので、実質この試みが最後の授業になる。本実践では山下（2020）が開発した「看図アプローチ語りカフェ」という方法を追実践していく。看図アプローチ語りカフェは自己を見つめ、改めて自己認識し、未来の自分を思い描いていく活動を含んでいる。さらに自分の思いや気づきを相手に説明する・相手の説明を

聞きコメントをつける・ふりかえりシートを書く活動も含んでいる。相手の説明を聞くことによって、相手の成長に気づくと同時に「自分もそうだ」という自己認識の深化も期待できる。

3 年間の国語の総まとめも兼ねているので、「聞く・話す・読む・書く・みる」の分野を 2 コマの中に入れて十分に活動させていこうと考えた。学習指導要領では「聞く・話す・読む・書く」の 4 分野だけであるが、筆者はこれに「みる」をつけ加えている。筆者は普段の授業でもこの 5 つの分野を心掛けている。今回は最終授業ということで、生徒に対してもこの 5 つの分野を意識して取り組もうと呼び掛けた。

II. 授業の実践

授業者・学習者

授業者は本稿筆者茅野、学習者は A 中学校の 3

1) 松戸市立小金南中学校

年生 6 クラスである。

教材等

ビジュアルテキストとして写真 8 枚を用いた。これらは山下（2020）で用いているものをそのまま活用した（写真 1～8 参照）。ワークシート・

ふりかえりシートは、山下（2020）で用いているものを中学生用に改訂した。ワークシート・ふりかえりシートはそれぞれ資料 1・2 として載せておく。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

© 山下雅佳実

資料 1 ワークシート

名前 _____	自分を深く考えよう大作戦 3年間の国語科卒業制作	
【入学した時の自分】	【卒業する自分】	【未来の（目指す）自分】
(写真貼付欄)	(写真貼付欄)	(写真貼付欄)
タイトル 	タイトル 	タイトル
(写真やタイトルについての説明記入欄)	(写真やタイトルについての説明記入欄)	(写真やタイトルについての説明記入欄)

(実際は A3 版。下半分の 9 マスは他の生徒からのコメント記入欄となっている。)

資料 2 ふりかえりシート

「自分を深く考えよう大作戦」 — 国語科卒業制作 —	<u>ふりかえりシート</u>
3 年 () 組 () 番 (名前)	
1. 今回の卒業制作を通して、自分の中で「変化」したものを 3 つ書いてください。 ①私は「大作戦」に参加する前は、 _____。 今は、_____。 ②私は「大作戦」に参加する前は、 _____。 今は、_____。 ③私は「大作戦」に参加する前は、 _____。 今は、_____。	
2. この授業に参加して、得られたものはありましたか？ [あった ・ なかった] 「あった」人に。それはどんなことですか？ _____	
3. 選んだ写真・タイトルを説明するときに、自分の考えや思いを語ることができましたか？ [できた ・ できなかった] 語ることができたのはなぜですか？ _____ 語ることができなかったのはなぜですか？ _____	

(実際は A4 版)

指導計画

【実施日】2020年2月上旬～中旬

【実施人数】全ての資料がそろった178名

実施内容

【授業目標】

義務教育修了前に自他を深く考えることができる。

【到達目標】

1. 自分の今までをふりかえり、現在を見つめ、

未来の自分につなげていくことができる（自己理解）。

2. 仲間の考えを知り、他者理解を深めることができる（他者理解）。

3. 仲間の考えを知り、それを自分の成長につなげることができる（協同の精神）。

4. 成長を実感することで、自己肯定感をもち、卒業に向かうことができる（自己肯定感）。

授業1ユニットの構成（50分×2コマ）

時間配当	実施手順・留意点等
1 コマ目 (50分)	- 授業のねらいについて話す。卒業制作ということで、3年間で学んだことをすべて発揮する。 - 写真シート（写真1～8を並べて印刷したもの）を配付する。何の写真、どんな写真かを周りの人と意見交換する。 - 拡大コピーを使用して手順の説明をする。（写真9－板書写真参照） 写真1～8から「入学した時の自分」「卒業する自分」「未来の（目指す）自分」にあてはまるものを選ぶ。各写真をワークシート（資料1）の写真貼付欄に貼る。それぞれの写真に「7文字タイトル」をつける。なぜその写真を選んだか、どうしてそのタイトルにしたのかわかるように説明をワークシート記入欄に書く。
2 コマ目 (50分)	- 自分の作品を説明する準備をする。読み上げるのではなく語り掛けるように発表することを意識する。 4人グループで順に発表する。発表の際に質問があれば自由にやりとりしてよい。4人の発表が終わったらグループ内でワークシートをまわしてコメントをつけ合う。 - 時間がとれるだけクラス内を移動して、他のグループのメンバーからもコメントをもらう。 - 自席に戻り、ふりかえりシート（資料2）を書き、自分の中の変化を確認する。余裕があれば裏面に3年間の国語授業の感想を書く。



写真9

Ⅲ. 授業結果

Ⅲ－１ ワークシート・ふりかえりシートの結果

ワークシートには生徒の作品と、作品に対する他の生徒からのコメントが記載されている。ここで言う「作品」とは、生徒が選択した写真・それにつけた7文字タイトルおよび写真とタイトルを結びつける説明からなっている。紙幅が限られているため、生徒全員の作品を紹介することはできない。そこで本論文では、特徴的な作品を7編抽出し紹介していく。

Ⅲ－１－１ 生徒1の作品等

生徒1の作品



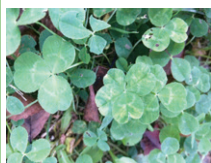
【入学した時の自分】

「日々共に光合成」

入学してすぐの時、私はまだ全然未熟で、まるで新緑の葉のような感じだと思ったからです。それにこの葉を1枚1枚よく見てみると、とげとげしていたり、丸まっていたりしていることがわかります。葉の大きさ・長さも全て違います。このように知らない新しい仲間、それぞれ違った仲間と出会ったのでこの写真を選びました。

1年生の時の私の性格にもあてはまります。いやなことがあると「チクチク」してしまう。うれしいことがあると「のびのび」とすごしていました。そんなこんなでありながらも新しい集団の仲間に入り、力みなぎるあつくてまぶしい太陽のような希望、仲間、優しさをたくさんあびて、心も体もパワーあふれていたからです。

光合成というタイトルには、何かを取り入れ、アウトプットし、何かを相手にするというこのくり返しが人としても成長できるからです。



【卒業する自分】

「思い出は永遠に」

この写真は、見て分かるように三つ葉のクローバーが、大きかったり、小さかったり、傷ついたり、

いたり、まわりは落ち葉だらけだったりいろいろです。卒業する自分は、きれいな三つ葉が未来への希望、傷ついたクローバーがこれまでの心の傷や悲しみ。そしてクローバーのかげの落ち葉などが広がる薄暗い場所が、卒業する悲しみと、今までの思い出を表していると思ったのでこの写真を選びました。

今まで一緒だった仲間ともはなればなれになってしまうことがとてもつらいけど、未来に希望をもつ、という少し複雑な気持ちがあります。

また、今まで経験してきた、心の深い傷や、うれしかった思い出、努力して生き抜いてきた力強さがこの写真に全てあふれていたこの写真を選びました。



【未来の（目指す）自分】

「窓を開けるととき」

この写真では一見ただ窓がしまって先が見えていないということにしかとらえることはできないと思います。ですが私は、この写真から、「まだ未来は見えていないけど、いつかこの窓を開けて明るい景色が見えるようになるのだろう」と思ったのです。

未来にはもちろん不安、心細さ、恐怖というものがつきものですが、その気持ちのもやもやを晴らして、未来に向かいこの窓をこじ開けられるくらいの自信と欲望あふれた人生にしていくことが私にとって大きな希望・夢です。

窓を開けることは動作的にはとても簡単ですが、1つ1つ確実に物事を進めなければ、動作的にも、夢や希望としてもとても難しいことです。失敗を恐れず、いつかこの窓の向こうに誰も見れない素敵な景色をつくり出したいです。

生徒1のふりかえり

1. 自分の中で変化したもの

- ①（「大作戦」に参加する前は）受験勉強でいっぱいだった。（今は）過去をふり返りながら未来を想像することで「前に進も

う」という気持ちが高まったと思う。

- ②（「大作戦」に参加する前は）写真の意味をとらえて自分を表現したこともなかった。（今は）友達の見見も見ながら、写真をよく見つめて、考えることができる。
- ③（「大作戦」に参加する前は）「大作戦」をやったどんな効果があるのか分からなかった。（今は）国語に必要な力を全て身に付けることができることが分かった。

2. この授業で得られたもの

〔あった〕

生徒 2 さんのワークシートで「未来の（目指す）自分」のところで、白紙を使っていた。わくにとられない自由な発想がさらに自分を高めてくれるということ。

3. 自分の考えや思いを語ることができたか

〔できた〕

自分が実際感じていたことをそのまま書けて表すことができたから。話す力がのびたから。

生徒 1 のふりかえりがどのような意義をもっているかは、この授業の到達目標と照合することで評価できる。

生徒 1 のふりかえりシートの記述内容「1－①」は到達目標の「1（自己理解）」に相当する。「1－②」は到達目標「3（協同の精神）」に相当する。「1－③」は到達目標「4（自己肯定感）」に相当する。さらに生徒 1 の「1－③」は、授業の中に「みる」を導入することが「国語に必要な力を全て身に付ける」につながっているという学習者の認識を表出している。これは、看図アプローチが設定している仮説の妥当性を、学習者の側から例証してくれている重要なデータでもある。生徒 1 の「2」は、他者の優れている点を積極的に認め、さらにそれを自らも吸収していこうとしている記述である。これは、今回の授業で「協同の精神」が醸成されていることを示すデータである。「3」は、到達目標の「4（自己肯定感）」に相当する。

以上みてきたように生徒 1 は、今回の授業の到達目標を全て達成できている。さらに、生徒 1

の作品には、仲間からもポジティブなコメントが寄せられている。次に生徒 1 の作品に対する仲間からのコメントを紹介しておく。

生徒 1 作品に対するコメント

生徒 1 へ①

全体的につながりがあって良い。写真 1 つをよく観察していて、写真の 1 つ 1 つの細かいところまで意味があるのがとても良い。また 1 つの写真を「光合成」とかそのレベルまで深く掘りだして、写真選びが上手だと感じた。自らのプラスの面とマイナスの面の対比が良かった。

生徒 1 へ②

全体的に緑が多くて、緑の色が心が落ちつくというかそういう人なんだなと思った。

草から、「思い出は永遠に」というタイトルをつけることは自分がちゃんと見ていなかった部分を見ないとわからない。観察力があってすごいなと思った。自分も思い出の中に入ったら（入っていないと思うけど）なんかうれしいなと思いました。また、影色が見えていないのが良かった。

生徒 1 へ③

写真の細かい部分を読み取って、自分の表したいものとつなげていたのがすごい。タイトルがとにかくステキ♡「日々共に光合成」を、いろいろなことを吸収することとかけているのが、思わず「なるほど」と言わされるような感じでよかった。最後の「窓を開けるとき」が、まだ自分の未来はこれからという感じがした。将来の〇〇（生徒 1 の名前）が楽しみー！

生徒 1 へ④

題名がすごく気持ちがこもっていて、題名を見ただけでも、気持ちが伝わり、すごく良かった！これからも、みんなでがんばろうね！！

生徒 1 へ⑤

「光合成」という表現がすごく良くて、最後までびっしりと書いていて良かったです。

Ⅲ－１－２ 生徒 2 の作品等

生徒 2 の作品については、上掲生徒 1 のふりかえりの中でも言及されていた。生徒 1 と生徒 2 は同じクラスに在籍している。

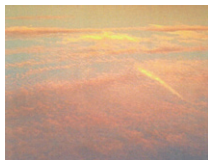
生徒 2 の作品



【入学した時の自分】

「ぼやける我が道」

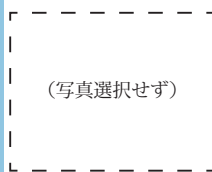
「モザイクのかかった窓の先には、道があるはずなのに、踏み出せないもどかしさ。」これが、この写真とタイトルの由来だ。当時の私には、自分が何者なのか、どういうのが好きで、どういうのが嫌いなのかを見つけることができなかった。それまでの自分は、いつも相手にあわせるばかり考えていて、自分の気持ちを全部押し殺して、心がマヒしてしまっていた。



【卒業する自分】

「我が道の行く先」

中学校生活 3 年間で自分は過去の自分を忘れてしまうほど移り変わっていた。入学した時の自分の痛みもいつの間にか消え、ただ美しい空が広がり、世界は広いのだと、忘れていた自分を改めて感じる事ができた。どこを見ても同じ景色が見えるが、その先がどうなっても受け入れられるような、そんな気がする。そう思えるぐらい私は変わったのだと思う。「大変」だった。だから「大」きく「変」われたのだと思う。



(写真選択せず)

【未来の(目指す)自分】

「無限キャンパス」

未来の自分を描くとしたら、真っ白で、まぶし

いくらいに輝く未知な所が良い。自分の目指す自分は、どんな色が塗られてもその色の個性がひきつようなキャンパスでありたい。いくつ年を重ねても黄ばむのではなく、味が出て、より一層輝くものでありたい。

生徒 2 のふりかえり

1. 自分の中で変化したもの

- ①（「大作戦」に参加する前は）1つのものを感じる思いは、みんな同じなのだろう。（今は）1つのものを感じている思いはみんな違って、こういう考えもあるんだな。
- ②（「大作戦」に参加する前は）未来の自分に對してぼやけたものがあった。（今は）自分のなりたい自分がはっきりとうつつてきている。
- ③（「大作戦」に参加する前は）みんなが思っていることをあまり知らなかった。（今は）こういう風に考えていたんだなと知ることができた。

2. この授業で得られたもの

〔あった〕

1人1人みんな「我」があって、感じるもの・見るもの・考えること全部が違っているということを知れたこと。

3. 自分の考えや思いを語ることができたか

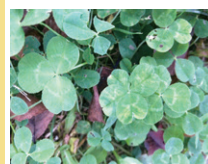
〔できた〕

今まで国語の授業でつちかってきた想像力や、自分の考えを書ける力があるから。

生徒 2 も今回の授業で設定した到達目標を全て達成していた。ただし、生徒 1 に対して行ったふりかえりシート記述内容と到達目標との対応づけは割愛する。

Ⅲ－１－３ 他の生徒たちの作品

生徒 3 の作品



【入学した時の自分】

「のびしろがある」

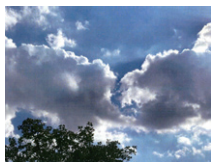
〇〇中に入った時、この学校で頑張っていこうと思った。自分的には中学校一年生が一番のびしろがあると思っている。小学生では少し早いし、高校生になるころには、もう人柄ができあがっているのだと思う。だから、中学一年生が一番自分をのばすことができるのではないかと思った。実際にいろんなことがのびた気がした。そう考えた時にこの写真が目に入ってきた。まだ根気強く成長しているところがよいと思ったから。



【卒業する自分】

「まだ知らぬ希望」

今の自分はまだ自分のその先について考えたことがありません。何かに熱中したり、何になりたいのか自分でもわかっていません。ですが、いつか必ず探し見つけたいと考えています。自分はこの世界についてまったく知らないので自分の光を見つけないと思います。この写真はまだ光がとびらにとざされていて、まだわからない感じがよいと思ったので選びました。何かのきっかけを見つけないといけない。



【未来の（目指す）自分】

「いつかかならず」

未来の自分なんてわかりません。しかし、今の自分が見て最低限ちゃんとやっているなと思ったならよかったと思います。自分のことはちゃんと自分でやる自分になってほしいです。そのためにも今頑張る必要があると思います。

未来に繋がるような自分になりたいです。今は何かを見つけたほしいと思います。この写真は天空なので大きな希望や大きな器などをもちたいという思いで選びました。

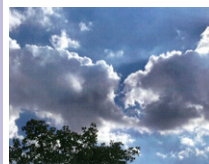
生徒 4 の作品



【入学した時の】

「狭い世界の中で」

視野が狭く、考えも限定的で、固定観念にしばられていた自分。外に飛び出すこともなし、挑戦もゼロだった。だから自分の世界にとらわれて、がんじがらめの中、自分の中でも息苦しく生きてきた。「いつ自分は変わるのだろうか。変わりたい。でも嫌だな。」という相反する気持ち。狭い世界にずっと閉じこもっていた。何かが欠けている。でもわからない。変わるのは怖い。そんな中で変わる機会は来るのかと、不安の日々。中学生、少しは変わるのかな?! 少しワクワクしながら進んできた。



【卒業する自分】

「広がる夢・未来」

いろいろな人と触れ合って、関わって大きく変化し、成長した。未来への可能性は無数に広がっている! そう思いたいからがんばった。まだまだ未完成な自分が、どんな成長をして、どんな人となるのか、未来に期待をふくらませて、不安と戦いながら、今を生きる。過去への後悔が少しでも減るように今をどう生きるのか、考えながら、生きていきたい。未来が少しでも良いもの、幸せなものにしたい。だから今をがんばって生きる! 中学校ありがとう。がんばった3年間に、感謝!



【未来の（目指す）自分】

「学びを成長に！」

同じ失敗をせず、自分の志をしっかりとった人になりたい。今の私では、未来の自分がわからない。でもこれだけは思うから。失敗を学びに、学びを成長にできる人。自立している人。笑顔です

です人。こんなまだまだたくさんある目標をもち続けて努力する。それができる人になる！だから時間を大切に、いきいきと生活している未来を思い浮かべて、がんばろう！

生徒5の作品



【入学した時の自分】
「希望のある大地」

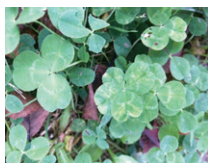
まだ気持ちもゆるくて、将来に向かっての意識というものがなかった。どのようにふるまっていたのかかわらず、ただボーッと過ごしていて地ばんとする精神面の基そがなっていなかったからこの写真にした。

だけど少しずつ時間がすぎていく中でだんだんと地面がかたまって1年の中ごろには芽がでてきた気がする。これからにむけての希望のある期間だったからこのタイトルにした。



【卒業する自分】
「相反して同じ色」

今は周りの雰囲気のにのめれたり、人と同じような行動をし、発言をしている気がして個性が失われたりして同じ色に染まってしまっている。周りにあわせることはできる。人と同じことができる。別に悪いことではないのかもしれない。だけど私は嫌だと思っている。嫌だと思っているのに染まっている自分も嫌だ。だから、少しずつでもいいから、人とは違うなにか行動をおこしてみたいと思っている。

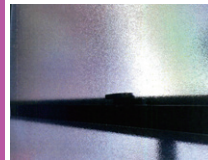


【未来の（目指す）自分】
「オンリーワン！」

今は自分の色を出せていないかもしれない。だけどいつか近い未来、自分にしかできないようなこと、四つ葉のクローバーのように見つけてもら

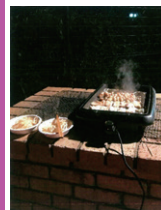
えたり、めぐり会えた人全てに喜んでもらえるような素敵な人になりたい。そして、ただそんな人間になるだけの人生ではつまらないと思うから、周りとは違う個性をもった「オンリーワン」な、ひきつけられるような人間になる。

生徒6の作品



【入学した時の自分】
「一直線のレール」

左の暗いのが入学時の不安。右の虹っぽくなっているのは、中学校への希望を表しているようだった。楽しみでもあったし、不安でもあるような心情をもっていた。まんなかのまどわくがレールに見えて、あともどりができない死ぬまでの一直線の道を表している。また、レールはあまり幅広いものではないので、こどくで不安な自分だけの人生という感じがしてとてもいいなと思った。



【卒業する自分】
「まだ焼けない肉」

まだ肉は鉄板のうえ。まだ焼けてない様子。まだ、焼けていないということは、料理としては不十分であり、自分が一人の人間としては不十分だということを表す。焼いている途中は肉汁が出て味が美味くなる。自分が料理として美味しくなるように時間をかけて焼き上げていきたい。今で満足せず成長したいと思う。

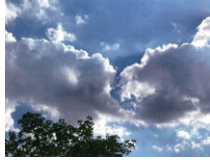


【未来の（目指す）自分】
「田舎の田のよう」

田んぼは季節によって色が違う。それは、喜怒哀楽の感情を表している。と同時に田舎の田んぼは広いので感情が豊かで心が広い人間になりたいと思った。また、田んぼはこの写真にうつらない影色にまで広がっていると思う。うつっていない

ということは今の自分では想像できない影色だと思があるので、今の自分にとらわれないという意味でこの写真にした。

生徒 7 の作品



【入学した時の自分】

「未来への第一歩」

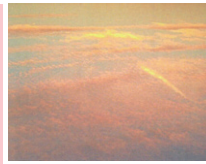
中学校入学。それは将来へ進む第一歩だと思う。いろいろな人と出会い、色々な経験をつみかさね、そして別れを告げる。人生約 100 年のうちのたった 3 年間でも、それが自分の人生となり記おくとして一生残り続ける。社会を学ぶ、第一かんもんである。中学校をだれと、そしてどのように過ごすかで人は変わっていく。そして将来の自分の人物像も変わると思う。私の選んだこの青く雲の多い空は、いろいろな景色を見てきていると思う。この空のように私もいろいろな景色を見て感じたいと思ったからこの写真を選んだ。



【卒業する自分】

「今未来へ進む時」

この窓の写真はまさに今の自分を表しているのだと思う。この先の将来の自分がまだみえていない。不安、心配、きんちょう。その感情たちが私の中をさまよっている。だがその感情をふりはらってでも前へ前へと進んでいかなければならない。この窓をあけたらなにがまっているのか私にはわからない。たとえ草がおいしげった空地でも、草を刈り、花をうえ育てたらきっといい公園になるかもしれない。自分の未来は自分しか変えられない。今、私は第二かんもんの高校へと進学しようとしている。そこも二分の一の確率でしか入れない。だが今まで積みかさねてきた勉強、勉強を教えてくれている先生、応援してくれている家族や親せきのためにも、今がんばる必要があるのは確かだ。今自分にできることを今やる。それが未来へ進む近道だと思った。



【未来の（目指す）自分】

「後悔ない人生を」

ふと、十年後二十年後三十年後の自分ははたして「幸せ」なのだろうかと思えることがある。タイムマシンを使ってみに行くことはできないのでそのころがどうかなんて今はわからない。だが、これはきっと五年前十年前の自分もどうなんだろうと思っていたと思う。たとえ十年後、二十年後が幸せではない人生がまっていたとしても「今」が幸せだと感じない人には十年後も二十年後にも幸せなんぞおとずれはしない。住む家があること、食事を食べれること、学校にかよえていること、全てが幸せなのだと思う。そしてこの写真のような空がこれから先の十年後二十年後も同じ色であることをねがってこの写真をえらんだ。未来はきっと明るい。いやこれから私が明るくしていくのだ。

以上に紹介した生徒だけが優れた作品をつくっていたわけではない。ふりかえりでは次の質問もしている。「選んだ写真・タイトルを説明するときに、自分の考えや思いを語ることができましたか？」これに対する回答結果が表 1 である。ほとんどの生徒が、自分で納得のいく作品制作や説明を行うことができています。

III-2 授業中の様子

（編集委員会注：実践研究であっても、授業者は、授業に集中していなければならない。このため「研究のために行う研究」のような体系的観察は不可能である。授業者による「授業中の様子」の報告は非体系的なものとならざるを得ない。また当然、授業者の主観や印象も入ってくる。しかし授業者の主観や印象が入った観察も「これからの実践研究」では重要であるとわれわれは考える。「この方法は使える」「この教材は役に立つ」のような「手ごたえ」こそ、次の現場に届けるべき「実践のエッセンス」であるからである。そのため本稿では授

表 1 資料 2（ふりかえりシート）「3」の質問への回答結果

	できた	できなかった	「できなかった」の内容
3-1	29	3	• たくさんの思い出があり、頭につまった。 • そのまま読んだ。 • 勇気がなかった。
3-2	28	3	• 日本語でうまく説明できない。 • ていねいにできなかった。 • タイトルしか説明できなかった。
3-3	29	3	• 完成していない。 • 書いたことをコンパクトにできなかった。 • まだ少し恥ずかしかった。
3-4	25	0	
3-5	27	2	• 写真とタイトルの説明しかできなかった。 • もう少し文を考えて、丁寧に自分の思いを伝えればよかった。
3-6	26	3	• 語るのは難しい。 • 説明するのは難しい。 • まとまらなかった。
計	164	14	

業者茅野の印象や感想も交えた「授業中の様子」を報告していく。なお以下の報告は 1 クラスに限定されたものではない。茅野が授業を行った 6 クラスでなされた観察である。）

授業中の様子

「えー、なんで焼肉なのー？」（写真 1 のこと）のひとことで一気に場が和んだ。卒業制作と聞き、多少緊張感が漂っていたクラス内がほぐれていくのがわかる。写真 1 のような意外性のあるビジュアルテキストを入れておくことも効果的である。

「この雑草なんだ？」「クローバーっていうんだよ。」「四つ葉のクローバーっていうじゃん。」「えっ？三つ葉だよ。」「真ん中らへんにあるじゃん、四つ葉。」「見つけたら幸せになるってよ。」「じゃ、オレ、幸せ？」「うん、オレも。」「何でも名前があるんだなあ。」「オマエ、部活でザコって言われてたけど、立派に名前あるじゃん。ザコじゃねーし。」

…このようなやり取りが見られた。「みる」ととどまらず、人生を語っているようではほえましかった。

たくさんのつぶやきがあり、それを通じてビジュアルテキストの読み解きがすすんでいった。「これ、いつの時間？」「グラウンド？白線があるけど水たまり。」「この葉っぱお茶の葉かな。」「色が若々しい。」「この写真上下どっちだ？」「どっちでもありだな。」「縦？横？」「何だかわからないなあ。」「雲のそばに飛行機か？」「どこどこ？」「ボンヤリしてるのは、水？」「水滴？」「すりガラスかなあ。カギがかかっている。開けられる？」「黄色の波打ってるのは草！」「稲じゃね？米がとれる。」など。

…このようなおしゃべりのあと自然に静かになり、黙々と作品づくりが始まった。意思決定まではザワつくことがあっても、この時間が大切なのである。おしゃべりしているうちに道が見つかる。道を見つける。

前向きにした座席で制作を行った。4人グループにすることも考えたが、自分の中での自己対話・自己認識をすすめるために、前向きの机列で実施した。必要であれば、隣や前後斜めには話しかけられる。

「同じタイトルがない」ところに驚いた。似ているものもあるが、十人十色である。こんなところにも人間の良さを感じる。だから互いに良さを認め合うことが大事。日本語の文字は種類があるので、工夫のしがいがある。苦肉の策として「記号を使ってもいいの？」と聞いてきた生徒もいた。「7文字タイトル」を考えること自体が、このあと書く「7文字タイトル」の説明記述欄に書き込む内容の準備になっている。

授業の2コマ目。4人グループで自分の作品の説明をしていく。説明準備の時間は5分とった。仲間の説明を笑顔で聞く姿が多かった。拍手が自然と出てきて、みんなに説明してくれてありがとうという気持ちが表現できていた。

4人の発表が終わったらワークシートをまわしてコメント書きをしてもらった。4人グループでのコメント書きが終わったら、クラス内を動いて他のグループの人からもコメントをもらう。クラス内を動いての活動は、仲良しの枠を越えて行ったが、男女で別れてしまうことが多かった。

『『読み上げる』の』と『説明する・話す』は違います。相手がわかるように工夫するんだよ。』という語り掛けで、プリントの持ち方、指し方、相手を見て話すなど、相手を意識した説明を心がけさせた。まだ不十分だったなと感じていた生徒もいた。経験回数が増えればもっと上手になれると思う。一歩前にすすんで相手に近づいていくコミュニケーションの力もつけさせたい。

グループメンバーの説明を聞いてからのコメント書きだったので、よく聞いて、内容をとらえようとしていた。また、一人終わると拍手が自然に出てきたのだが、他のグループの説明の邪魔にならぬように小さな音で笑顔と共にやっていた。プレゼンの練習にもなっていた。時間がとれる場合は、前に出て、クラス全員の前での発表も良いかなと考えていた。

公立高校前期入試前日のクラスは、「心配だよね。」「でもさ、気持ちが同じと思うとちょっと救われるね。」「場所は違うけどがんばろうね。」などと互いにエールを送り合う姿も見られた。特別仲良しでなくても1年間クラスを共にした仲間だからこそ自然に出てくる言葉なのだろう。

前時の授業を欠席して作品が完成していない生徒もいる。この場合、写真さえ選んでいけば、あとはアドリブでやっていける。そのためそのような生徒には説明準備の5分間で説明する内容を考えてもらった。周りの生徒たちの質問に答えることで説明・発表ができていた。このような生徒たちも、授業に能動的に参加できていた。

説明・発表準備の時間(2コマ目の最初)をとることによって、読み上げるだけではなく、説明するのだという意識づくりができた。この意識はとても大きく、聞き手の反応も大きく違ってくる。また、グループの他の3人の説明・発表を聞き「!」とヒントをもらっている場面もあり、他のグループメンバーのところへ出かけていくときには説明が上手になっていた。発表のポイントをつかむ練習にもなっていた。

今回用いたのはいろいろな見方・考え方ができる写真である。授業の一番はじめに写真シートを配付した。おしゃべりが大好きな3年生は「あーだ」「こーだ」と話し始める。この時

間がとても重要である。すべての写真が「入学・今・未来」に使用可能なのである。ひと区切りついたところで、今回の取り組みの手順説明をする。写真を使った授業は「卒業制作」と大きく銘打ったために、真剣味が増していた。

いざ写真を選ぶ段階になると私語もなくなり、ひたすら自分と向き合う。3枚をどんな気持ちで選んでいるのか、心の声を聞いてみたいものである。写真を選ぶこと＝自分を見つめる。自己認識である。看図アプローチが重視している「ビジュアルテキストの曖昧さ」がいきているのだと思う。いかようにも読み取れる写真に大きな魅力を感じる。カラー版ということで一層魅力を放っている。

発見する目をもつことは、人生を豊かに楽しくしてくれるのではないかと思う。何かを発見する裏には必ず本人の心情なり感性が隠されている。それを自分自身が読み解いていく中で、明確なものとして認識されていくのではないか。その過程を楽しむことは大変幸せなことである。

IV. 考察

看図アプローチを導入することのメリットは数多くある。とくに今回の実践で次のことに気づいた。

生徒たちの「自分の感じや考え」が写真（ビジュアルテキスト）によって触発され、自分を深く見つめる時間になっていくことが授業者として体感できた。様々な美術作品や自分を取り巻く「もの」「人」をよく「みる」ことが内省への道なのだと考えられる。そのチャンスが人との関わりの中で楽しさとともに訪れてくるのは、誰にとってもうれしい時間なのである。今回の実践では、このような時間をつくり出せたと感じている。

引用・参考文献

- 茅野徑子 2020 「肯定感を育て認め合う集団づくりを目指して—看図アプローチ協同学習による授業実践—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2号 pp.3-11
- 鹿内信善 2007 『[創造的読み]の支援方法に関する研究』 風間書房
- 鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領—「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン—』 溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち ● 看図作文レパートリー ●』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方: 看図アプローチで育てる学びの力』 ナカニシヤ出版
- 山下雅佳実 2020 「『看図アプローチ語りカフェ』プログラムに関する探索的研究—保育所における園内研修としての有用性—」『保育文化研究』第10号 pp.75-88

謝辞

看図アプローチ語りカフェのすすめ方をご教授頂きました中村学園大学の山下雅佳実先生に心より感謝申し上げます。

2020年4月10日受付

2020年4月28日査読終了受理